

人工臓器治療の地域格差解消に向けた挑戦

監修

愛媛大学大学院医学系研究科心臓血管・呼吸器外科学

西村 隆

近年、様々な人工臓器が発展し、臨床現場を大きく変革しつつある。それまで治療不可能と考えられていた疾患、たとえ救命し得たとしても著しく生活の質が下がる治療法など、臨床が抱える大きな問題を次々と解決し、多くの診療領域でその成果が発揮されつつある。さらに、本邦の保険診療システムによって、その恩恵は本邦全体にわたり津々浦々まで浸透するはずであった。しかしながら、実臨床の現状においては、医療機器運用における安全確保、多職種全体の習熟度の維持、高額な機器を用いる上での費用対効果への配慮など、様々な人工臓器治療に特有の難しさゆえに、多くの施設で運用開始に時間がかかることが多い。結果として引き起こされる地域格差は、患者にとっての不利益だけでなく、治療を導入できない医療関係者、思い通りに収益が上がらない医療機器メーカーらにとっても大きな問題となっている。

この人工臓器治療の地域格差問題に対して、様々な分野で解決に向けた新たな挑戦が行われている。治療成績以外の障害によって全国普及を目指すもなかなか進まないデバイスや治療法にとって、今、この地域格差を解消して全国普及を行えるか否かは、最も注目されている問題といえる。そこで、いくつかの治療法における試みや現状を横断的に紹介することによって、地域格差が引き起こされる問題点を洗い出し、新たな展開につなげる特集を企画した。本特集は、地域格差を突破するべく日夜努力している人工臓器治療の専門家がそれぞれの視点から、これまでの経緯を振り返り、現状を分析し、将来に向けて提言したものである。いずれもわかりやすく、かつ鋭く解説しているものであり、今後、この問題に挑戦していく読者諸兄のアイデア創出の一助となれば幸いである。

1. 植込型VAD管理施設の地域医療における役割

東 晴彦(愛媛大学大学院医学系研究科循環器・呼吸器・腎高血圧内科学), 他

2. 植込み型補助人工心臓の教育と管理の標準化の必要性について

一シームレスな植込み型補助人工心臓の管理を目指して一

柏 公一(東京大学医学部附属病院医療機器管理部)

3. 日本から世界へ発信する人工臓器療法の普及

花崎和弘(高知大学医学部附属病院病院長), 他

4. 我が国の在宅血液透析の地域差を考える

政金生人(一般社団法人日本在宅血液透析学会理事長, 医療法人社団清永会 矢吹病院院長)

5. 新規吸着型血液浄化器レオカーナの全国普及

松本健吾(社会医療法人敬和会大分岡病院創傷ケアセンター形成外科)

6. EXCOR～地域における小児重症心不全治療～

打田俊司(愛媛大学大学院医学系研究科心臓血管・呼吸器外科学)